

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	○基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに主体的・対話的で深い学びによる授業改善を目指す。	○授業の中で学ぶ楽しさを味わい、主体的に学習する態度の育成を図る。	○児童が主体的に学習に励み、3つの資質能力の育成を図れるよう問題解決能力の育成を図る。	4 1 全教員がアンケートを実施した。 3 80%～100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%～80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4	4 アンケート調査で70%以上の児童が肯定的な回答をしている。 3 アンケート調査で70%未満～60%の児童が肯定的な回答をしている。 2 アンケート調査で60%未満～50%の児童が肯定的な回答をしている。 1 アンケート調査で50%未満の児童が肯定的な回答をしている。	4	各教科の基礎・基本の定着に向けた授業改善及び教科指導の見直しを行い、子供たちの学習態度を整えることに加え、校内研修などを通して教員と児童と、主体的に学習に取り組めるよう授業改善を図る。	4	今年度の学力テストの結果を各学年分析し、授業改善策を検討し、子供たちの主体的な定着を図る。本年度の校内研修の内容や主題に基づいたものに、主体的に学習に取り組む児童の育成を目指した授業改善につなげる。	
		○ICTを活用した授業を充実させる。児童の「情報活用能力」の育成を図る。	○各学年で昭島市から示されている「子供たちに身に付けさせたICT操作能力」を把握し、資質能力の育成を目指す。	4 1 全教員がアンケートを実施した。 3 80%～100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%～80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4	4 90%以上の児童がタブレットを活用している。 3 80%～90%未満の児童がタブレットを活用している。 2 70%～80%未満の児童がタブレットを活用している。 1 70%未満の児童がタブレットを活用している。	3	年度途中と年度末に結果を比較できるように、2学期中にアンケートを実施し、児童の意見を把握できるようにも推進してほしい。また、低学年段階での活用方法についても明確にしてほしい。	4	ICTの活用能力がここからの児童にとって必要になるため、今後も推進してほしい。また、低学年段階での活用方法についても明確にしてほしい。	
		○読書活動の推進と言語能力の育成に向け、学校司書及びボランティアが連携し、子供たちの読書活動の一面の推進を図る。	○学校司書が中心となり、ボランティアや委員会の活動等と連携を図り、子供たちの読書活動の一面の推進を行う。	4 1 各学級で図書室を月4回以上使用した。 3 各学級で図書室を月3回以上使用した。 2 各学級で図書室を月2回以上使用した。 1 70%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。	2	4 90%以上の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 3 80%～90%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 2 70%～80%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 1 70%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。	3	図書室は図書委員が担任に連携しながら、定期的な図書室利用の習慣を身に付けた。読書習慣のイベントを企画したり、年間を通して読書に関する教育活動を実施してはいた。	3	図書室は図書委員の働きかけだけでなく、図書委員として、年間図書計画の作成や読書活動の推進、読書単元をとり入れ、他教科との関連を図りながら読書のさらなる活用を目指した。	
		○児童の自己肯定感を高め、常に相手とのよさを考え行動することができるようになる。	○HQU調査を年2回実施し、学級の実態に応じた指導をする。	4 1 全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 3 80%～100%の教員がアンケートから個々の児童への指導を行った。 2 70%～80%未満の教員がアンケートから個々の児童への指導を行った。 1 70%未満の教員がアンケートから個々の児童への指導を行った。	4	4 90%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 3 80%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 2 60%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 1 自己肯定感があると感じている児童が60%未満だった。	4	各学年の自己肯定感の調査から児童の実態をつき、改善策を見出し、教員同士が各学年の実態を共有する場を定期的に設けている。また、子供の課題や悩みに対して個別に面談を行い、保護者と情報共有している。	3	自己肯定感を高めるために、積極的に保護者と面談を行い、連絡密にしてほしい。クラスによって差が見受けられるので、学校全体で、連携方法を明確にしてほしい。	
豊かな心	○相手の気持ちを想像し、人との関わりを大切にできる豊かな心を育成する。	○道徳科を道徳教育の要の時間と位置付け、教科横断的な視点で各教科にて、計画的・発展的に行うようにする。	○教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	4 1 すべての教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 3 70%～100%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 2 40%～70%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 1 40%未満の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。	4	4 95%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 1 振り返りを書くことが出来た児童が80%以下だった。	3	長湯のワークシートを学年間で共有したり、道徳授業で公開授業に向け授業改善や学年ごとの作成、道徳授業公開授業では、保護者（水休の日本元日）が来校して、児童の思いを思いやる気持ちで表現できる児童を増やすことを目指している。	3	児童の自己肯定感の向上を図るため、各学年の家庭と地域社会との連携を図っている。また、年間指導計画やアンケートで、児童の意見や要望を把握し、必要に応じて、自然体活動などを通して児童の思いや願いに寄り添った道徳の育成を図ることを目指している。	
		○いじめを許さない心を育て、いじめの早期発見解決に努める。	○年3回の学校生活アンケートからみんながよりよく生活できるようにに関するアンケート項目を設定し、実施する。	4 1 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。	4	4 学級生活満足度が50%以上 3 学級生活満足度が40%以上 2 学級生活満足度が30%以上 1 学級生活満足度が30%以下	3	校内研究と関連させ、2回の結果から数値による分析をし、各学年間で情報共有をしたり、具体的な改善策を検討したりする。結果を児童や保護者にフィードバックできるように準備を進めている。	3	最も重要な課題であると考えて、改善策を検討するだけでなく、早期に対応し、当該の方々にフィードバックして見守りを強化してほしい。	
		○児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。	○体力向上プロジェクトや短なわや長なわの取組を実施し、運動することの楽しさやよさを味わわせる。	4 1 全教員が計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った。	4	4 調査結果が昨年比平均ポイントから2ポイント以上 3 調査結果が昨年比～+2ポイント 2 調査結果が昨年比-2ポイント以内 1 調査結果が昨年比-2ポイント以下	2	年間を通して運動委員会が体力向上プロジェクトとして体力テスト種目の測定や実施し、短なわや長なわの取組を実施し、全学年で取り組むことができるようにする。本年度は体力テストの結果にも結び付けて検討を進めている。	3	運動と健康は生涯にわたって取り組むことだと考える。ダスンを取り入れることで、体を動かすことの楽しさを伝えてほしい。	
		○自分の心と体の健康に関心をもち、基礎的な体力と心身の育成と向上を図る。	○毎学級実施する「すけいりカード」の取組の結果を集計し、その結果を統計・分析し、日々の指導改善に努める。	4 1 全教員が計画的な指導を実施した。 3 80%から100%未満の教員が計画的に指導した。 2 70%から80%の教員が計画的に指導した。 1 70%未満の教員が計画的に指導した。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している。 3 80%～90%未満の児童が目標を達成している。 2 70%～80%未満の児童が目標を達成している。 1 70%未満の児童が目標を達成している。	2	生活指導と養護教諭を中心に、年間指導計画の確かな実施を心がけている。すけいりカードの取組を通じて、結果や取組に関する内容を家庭にお便りや重要伝言板を通じて、家庭に重要性を伝える。家庭に、重要性を伝える。	3	生活指導と養護教諭を中心に、すけいりカードの取組を通じて、結果や取組に関する内容を家庭にお便りや重要伝言板を通じて、家庭に重要性を伝える。家庭に、重要性を伝える。	
健やかな体	○食に関わる望ましい食習慣の形成を促進する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 1 全教員が食育計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。	4	4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している。 3 80%～90%未満の児童が食育のめあてを達成している。 2 70%～80%未満の児童が食育のめあてを達成している。 1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している。	3	2学期のお弁当の日の取組状況から、児童の食育のめあてに対する達成度や90%以上と分かった。栄養士と食育担当を中心に、さらに充実を図っていく。	4	食は、生活の根本であるため、今後も継続して「食べること」の指導を充実してほしい。	
		○幼保小中連携の推進を図るとともに、学年始めに「キャリアルbum」を作成し、目標をもって生活を送れるようにする。	○幼保小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	4 1 全教員が方策を実施した。 3 80%～100%未満の教員が方策を実施した。 2 70%～80%未満の教員が方策を実施した。 1 70%未満の教員が方策を実施した。	4	4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる。 3 80%～90%未満の児童が安心して進級・進学できる。 2 70%～80%未満の児童が安心して進級・進学できる。 1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる。	3	キャリアルbumの引き継ぎと連携を教員同士と進め、それぞれが、各学期の始めと終わりに、それぞの目標や振り返りや、子供たちの成長や振り返りを書き、子供たちの目標を記録し、振り返りもでき、年々、年々進捗している。	3	地域の方々とより活用したり、異学年交流をより活用して自分と違う立場の方との交流を通して考えを深めてほしい。	
		○文化、スポーツ、高齢者、外国人、地域工場・店舗等での学びの場を各学年設定する。	○文化、スポーツ、高齢者、外国人、地域工場・店舗等での学びの場を各学年設定する。	4 1 各学級の児童が交流体験を実施した。 3 80%～100%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 2 70%～80%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している。 3 80%～90%未満の児童が目標を達成している。 2 70%～80%未満の児童が目標を達成している。 1 70%未満の児童が目標を達成している。	4	全学年が文化やスポーツなどについて外部人材と交流体験を行うことができた。	4	地域の方やスポーツ団体を積極的に活用していきつつあった。今後も外部の方々との交流を企画してほしい。	
		○家庭・地域の声を活かすとともに学校の教育活動を積極的に発信していく。	○学校が地域より等々を通じて保護者や地域に向けて児童の活動等を発信したり、行事や教育活動の際にアンケートを取り、改善を図っていく。	4 1 各行事の実施を受け、毎月ホームページを更新した。 3 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した。 2 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した。 1 各行事の実施を受け、学期に1回ホームページを更新した。	4	4 80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 3 50%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 2 20%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 1 20%未満の保護者が教育活動への理解を示している。	4	市のアンケート結果の教育活動に関する項目の回答を計算すると平均割合で昨年度より15%向上している。職員で共有し次年度に向けての取組を今後検討していく。	4	市のアンケート結果の教育活動に関する項目の回答を計算すると平均割合で昨年度より15%向上している。職員で共有し次年度に向けての取組を今後検討していく。	
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○家庭・地域の声を活かすとともに学校の教育活動を積極的に発信していく。	○学校が地域より等々を通じて保護者や地域に向けて児童の活動等を発信したり、行事や教育活動の際にアンケートを取り、改善を図っていく。	4 1 各行事の実施を受け、毎月ホームページを更新した。 3 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した。 2 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した。 1 各行事の実施を受け、学期に1回ホームページを更新した。	4	4 80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 3 50%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 2 20%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 1 20%未満の保護者が教育活動への理解を示している。	4	市のアンケート結果の教育活動に関する項目の回答を計算すると平均割合で昨年度より15%向上している。職員で共有し次年度に向けての取組を今後検討していく。	4	市のアンケート結果の教育活動に関する項目の回答を計算すると平均割合で昨年度より15%向上している。職員で共有し次年度に向けての取組を今後検討していく。	
		○幼保小中連携の推進を図るとともに、学年始めに「キャリアルbum」を作成し、目標をもって生活を送れるようにする。	○幼保小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	4 1 全教員が方策を実施した。 3 80%～100%未満の教員が方策を実施した。 2 70%～80%未満の教員が方策を実施した。 1 70%未満の教員が方策を実施した。	4	4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる。 3 80%～90%未満の児童が安心して進級・進学できる。 2 70%～80%未満の児童が安心して進級・進学できる。 1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる。	3	キャリアルbumの引き継ぎと連携を教員同士と進め、それぞれが、各学期の始めと終わりに、それぞの目標や振り返りや、子供たちの成長や振り返りを書き、子供たちの目標を記録し、振り返りもでき、年々、年々進捗している。	3	地域の方々とより活用したり、異学年交流をより活用して自分と違う立場の方との交流を通して考えを深めてほしい。	
		○文化、スポーツ、高齢者、外国人、地域工場・店舗等での学びの場を各学年設定する。	○文化、スポーツ、高齢者、外国人、地域工場・店舗等での学びの場を各学年設定する。	4 1 各学級の児童が交流体験を実施した。 3 80%～100%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 2 70%～80%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している。 3 80%～90%未満の児童が目標を達成している。 2 70%～80%未満の児童が目標を達成している。 1 70%未満の児童が目標を達成している。	4	全学年が文化やスポーツなどについて外部人材と交流体験を行うことができた。	4	地域の方やスポーツ団体を積極的に活用していきつつあった。今後も外部の方々との交流を企画してほしい。	
		○家庭・地域の声を活かすとともに学校の教育活動を積極的に発信していく。	○学校が地域より等々を通じて保護者や地域に向けて児童の活動等を発信したり、行事や教育活動の際にアンケートを取り、改善を図っていく。	4 1 各行事の実施を受け、毎月ホームページを更新した。 3 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した。 2 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した。 1 各行事の実施を受け、学期に1回ホームページを更新した。	4	4 80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 3 50%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 2 20%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 1 20%未満の保護者が教育活動への理解を示している。	4	市のアンケート結果の教育活動に関する項目の回答を計算すると平均割合で昨年度より15%向上している。職員で共有し次年度に向けての取組を今後検討していく。	4	市のアンケート結果の教育活動に関する項目の回答を計算すると平均割合で昨年度より15%向上している。職員で共有し次年度に向けての取組を今後検討していく。	